

## ACO ぷれいす事業所自己評価シート（放課後等デイサービス）

## 保護者による評価

## 職員による自己評価

実施：令和8年3月

回収57名（回収率71%）

## A環境面

## 1.活動のスペース確保

97%確保されていると評価された。

## 2.職員の専門性・配置数

97%の適切であると評価がされた。

## 3.設備

バリアフリー化の配慮がされているとの評価は90%であった。

## B児童への支援内容

## 4.個別支援計画作成

客観的に作成され分かりやすく説明されているという評価が97%だった。

## 5.活動プログラムの工夫

90%工夫されているという評価であった。事前に月予定が分かると良いという意見があった。また、ボードゲームやカードゲームを知る良い機会になっているという評価も見られた。

## C事業所からの情報発信

## 6.利用者負担や支援内容の説明

100%が口頭で丁寧な説明やコドモンが活用できているという評価であった。

## 7.子どもの状況や発達課題での保護者との共通理解

97%できているという評価であった。意見の中には個別的によく見て関わっていただけているという評価もあった。

## 8.保護者面談や育児相談の支援

95%が適切に行われているという評価があった。

## 9.保護者会など保護者同士の連携

88%の評価であり、前年度と比較して20%ほど上昇した。オンラインでの参加を希望する声もあった。

## 10.苦情に対する対応

86%が適切に対応しているという評価であった。また苦情を伝えることがないので分からないと回答されている人もいた。

## 11.意思疎通や情報伝達のための配慮

97%適切であるとの評価を得た。

## 12. 情報発信について

91%が適切であると評価している。

## 13.個人情報について

95%は十分に注意しているという評価であった。

実施：令和8年3月 回収7名（回収率100%）

## A環境面

## 1. 訓練室等スペース

100%確保されているとの評価だった。

## 2. 職員の配置数

57%が適切であるという評価だった。前年度と比較して20%ほど上昇した。どちらともいえないが42%で、曜日やタイミングで人手が足りなくなるタイミングがあるものの、連携して対応できているという意見もあった。

## 3. 設備においてバリアフリー化の配慮

86%適切であるという評価だった。引き戸などのレールも上部あることで躓きにくくなる工夫がされているという記述があった。

## B業務改善

## 4. 業務改善を進めるための参画

71%が評価していた。

## 5. 保護者の意向を把握し業務改善につなげているか

86%の評価で、業務改善につながっていると評価されている。

## 6. 自己評価結果の公開

100%が適切に公開しているという評価だった。

## 7. 外部評価について、

57%が外部からの評価を業務改善につなげていると評価している。29%は分からないという回答であった。情報が周知されていないことが原因であると考えられる。

## 8. 研修の機会確保

100%が評価しており、研修により質の向上を図っている評価を得た。

## C適切な支援の提供

## 9. 客観的分析による個別支援計画の作成

100%が適切にできているとの評価だった。

## 10. 標準化されたアセスメントツールの使用

86%が使用できていると評価している。

## 11. 活動プログラムの立案

100%がチームで行うことが出来ていると評価している。

## 12. 活動プログラムの工夫

100%が固定化しないよう工夫していると評価している。

## 13. 課題設定に応じた支援内容

100%が出来ていると評価している。

## 14. 子どもの状況に応じた支援計画の作成

100%が出来ていると評価している。

## 15. 支援開始前の打ち合わせ

100%が出来ていると評価している。

## 16. 支援終了時の振り返り

86%が出来ていると評価している。

## 17. 記録の徹底、支援の検証・改善

100%が出来ていると評価している。

## D関係機関と保護者との連携

## 18. 定期的なモニタリングによる個別支援計画の見直し

100%が出来ていると評価している。

## 19. ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせた支援

100%が出来ていると評価している。

## 20. 相談支援のサービス担当会議への参画

86%が適切な人材が参画していると評価している。

## 21. 学校との情報共有、連絡調整

100%が適切に行っていると評価している。

## 22. 医療的ケアの子どもの受け入れ、主治医との連携体制

43%が適切にできていると評価している。どちらともいえないが14%で、分からないという回答も多く、43%これは対象児がいないことが要因だと思われる。

## D 非常対応

14. 緊急時対応、防犯、感染症対応について、

97%が適切に対応していると評価している。

15. 非常災害の訓練

97%が適切に行われていると評価している。前年度と比較して 10%程上昇している。

## E 満足度

16. 通所を楽しみにしている

評価は 83%であった。前年度と比較して 4%ほど上昇した。また、どちらともいえないという評価は 16%であった。

17. 支援への満足

評価は 98%であった。放課後教室の支援による、送迎バスの運行時間などについての要望があった。親子イベントや秋祭りなど、イベントについては楽しみにしているという意見が多くあった。

23. 就学前に利用していた幼稚園や保育園など、発達支援事業所との情報共有と相互理解

86%が出来ていると評価している。情報共有が十分に行えていない部分もあるのではないかとする記述があった。

24. 事業所を移行するときの情報提供 100%が出来ていると評価している。

25. 専門機関との連携や助言・研修の活用 71%が出来ていると評価している。

26. 障がいのない子どもとの交流

29%できていると評価している。障害児通所支援事業のため、交流の機会が少ないことについては理解されている。

27. 地域自立支援協議会等への参加

86%が出来ていると評価している。前年度よりも 30%向上しているが、職員間での認知度が高くなっていることが要因であると思われる。

28. 利用者に関する保護者との共通理解 100%が出来ていると評価している。

29. ペアレントトレーニング等の保護者支援

100%が出来ていると評価している。保護者会の開催に合わせて、研修等の機会が向上していることも要因であると思われる。

## E 保護者への説明責任

30. 運営規定、支援内容、利用者負担額の説明

100%が丁寧な説明を行っているという評価がある。職員 1 人 1 人が責任を持って取り組めるようになっていることが要因であると思われる。

31. 保護者からの相談対応の支援 100%が出来ていると評価している。

32. 保護者同士の連携の支援 86%が出来ていると評価している。

33. 苦情対応 100%ができていると評価している。

34. 情報の発信 100%ができていると評価している。

35. 個人情報への留意 100%ができていると評価している。

36. 利用者への情報伝達の配慮 100%ができていると評価している。

37. 地域住民との交流

42%の評価で、できていないという評価が多かった。こちらも障害児通所支援事業ということから、交流の機会が少ない現状がある。

38. マニュアルの策定・周知 100%ができていると評価している。

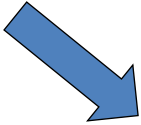
39. 非常時の訓練 100%ができていると評価している。

40. 虐待防止への取り組み 100%ができていると評価している。

41. 身体拘束の説明 100%ができていると評価している。

42. アレルギーの配慮 100%ができていると評価している。

43. ヒヤリハットの作成・周知 100%ができていると評価している。



## 事業所内での分析

### 【共通点】

**環境面**：職員の専門性、スペースの確保についてはともに高い評価が多かった。施設のバリアフリー化についても支持を得られているが、引き続き進めていきたい。職員配置に関しては現状足りないと感じているものの、対応が必要な際は他事業所に要請を出し、来てもらうことはできている。

**児童への支援内容**：職員・保護者ともに評価が高い内容が多かった。保護者からは個別に合わせた支援の質の高さや、フィードバックの丁寧さなどで好評をいただくことが多かった。職員からもアセスメント力の向上や、それに基づいた支援計画ができているという評価があった。

**事業所からの情報発信**：保護者会や連携会議の認知度が、広報誌等により高まり、前年度よりも高い評価を得られている。職員1人1人が保護者にアプローチすることで、職員自体の意識も変わり、向上につながったと考えられる。

**非常対応**：前回よりも高評価となった。避難訓練は保護者を巻き込み、連絡ツールも活用したことで認知度が向上していると思われる。

**保護者への説明等**：全体的に高評価ではあるものの、保護者同士の連携や、地域住民との関わりに関しては実際にできていないことが多いため、工夫が必要であると考えられる。

## 分析・検討してみる…

### 事業所の強み

- ・ 支援の質の高さや個人に合わせた対応という点では高い評価を得られている。
- ・ 事業所の環境面でも広いこと・個室が多いことを評価されている。
- ・ 職員間の情報発信の重要性を共有し、システム導入を新たに導入し、保護者交流会や、避難訓練などの情報が周知されやすくなり、情報が保護者にも行き届きやすくなっている。

### 事業所の改善点

- ・ 連携会議、自立支援協議会等)に参加しているが、職員間での情報共有する機会を増やす試みが必要である。
- ・ 畑を借りたイベントや料理などのイベントに参加する地域住民、関係機関との交流はあるものの、在住区の地域活動にもっと参加し、保護者への情報伝達方法の工夫や地域交流の場をつくっていく。
- ・ 評価アンケートの回収率を上げるため、紙媒体から次年度以降はネット環境での調査・収集できるように改善していく。

## 事業所の改善への取り組み

### 環境面：

- ① 職員配置について、法人全体の人材募集を見直し、改善を図る。

### 支援内容：

- ① 引き続き専門性を生かした支援を提供していく。
- ② 保護者や家族の支援も含めた支援内容を考え、提供していく。

### 情報発信：

- ① ICT ツールを活用し、より広く情報が知られるように工夫をする。
- ② 連携会議等、利用していない保護者にも存在が認知されるよう発信していく。

### 非常対応：

- ① 非常時の対応、マニュアルをすべての職員が把握し、対応を行えるよう内部研修を行う。
- ② 災害備蓄や避難場所の確認、スムーズな誘導が行えるよう避難訓練を行う。
- ③ 活動中の対応について保護者と事前の取り決めをしておき混乱の生じないよう対応する。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

前年度の反省を生かし、情報発信力を高めると同時に、保護者会や避難訓練などの機会を増やしたことで、保護者や職員自身の認知度や満足度が向上していた。支援の質は高い水準を維持できているため、事業所の取り組みを引き続き保護者や、事務職員等にも伝えていき、情報の周知に取り組んでいくことが次年度も大切だと感じている。

事業所名 ACO 放課後等デイサービスふれいす

担当者：筒本 千文